

平成28年2月市議会定例会が2月24日に開会され、市長と教育長が行政報告を行いました。このページからは、その要旨を紹介いたします。なお全文は市ホームページで紹介しています。

市長から

瀬戸内市が誕生して12年目を迎えました。図書館、市民病院など、本市の重要施策が具体的に形となって現れる年です。

今後は、さらなる課題に対応し地方創生に取り組んでいくために、結婚期や就学前のお子さんをお持ちのご家庭とその乳幼児に着目し、市で子育てをしていただけるまちづくりを重点的に進めていく必要があると考えています。

その取り組みとして、学校、幼稚園、保育園と連携しながら子どもたちの成長をしっかりと支える切れ目のない子育て支援組織の充実と、子どもを連れて行きたくなくなる公園・広場の整備などを進めていく

所存です。

また、0歳・1歳児の保育、一時保育、発達支援教育への対応など多様化する保育ニーズへの対応も欠かせません。民間団体や市民の皆さんの力をお借りしながら思い切った取り組みを行うことにより、子育て負担、子育て不安の軽減を図り、継続的、安定的に子育て、教育できる環境が整うことが、本市の地方創生の



6月初旬オープン予定の新図書館

重要な柱になると考えます。

また、長年の懸案事項である、市の玄関口にふさわしい駅前整備や人口減少地域で目立つ空き地・空き家への対策、農作物被害を食い止めるための有害鳥獣対策の強化、不便さの目立つ地域への新たな公共交通の導入、老朽化の目立つ火葬場の整備更新など、市民や議会の皆さんのお力添えをいただきながら取り組まなければならぬことは数多く残されています。

「人と自然が織りなすしあわせ実感都市 瀬戸内」の実現に向けて、引き続き、理想と情熱を持って努力することをお誓いします。

新年度の機構改革

市民生活部生活環境課は、ごみ30%減量、国が進める地

球温暖化対策、新火葬場整備など、事務の内容が多様化し、量も増加してきています。

そのため、市民生活部から環境部として独立させ、これまでのごみの減量化などを所管する生活環境課に加え、地球温暖化対策、新火葬場整備などを所管する環境政策推進室を新設します。それに伴い、市民生活部は、名称を市民部に変更します。

保健福祉部には、国の制度改正などにより増加している福祉サービスに迅速に対応するため、福祉事務所長として部長級参与を配置するとともに、妊婦・出産・子育てを包括的に支援するため、健康づくり推進課内に子ども包括支援センターを設置します。産業建設部錦海プロジェクト推進課については、玉津港、師楽港の工事がほぼ完了

し、錦海湾堤防補強工事も平成28年度末には完了する予定です。

そのため、同課を廃止し、産業建設部建設課内に新設する錦海プロジェクト推進係で、内水管理などの従来業務と事業の適正な進捗管理を行います。

用語の解説・備考

子ども包括支援センター

「妊娠期から子育て期に切れ目なく支援をすること」、「相談窓口を置き、妊産婦、子育て家庭の悩みを気軽に相談できる場を確保すること」、「地域の関係機関とのネットワークを構築し支援体制をつくること」を目的として、一人一人の子どもが健やかに成長する支援体制を強化するために設置する。

瀬戸内市地域公共交通網形成計画の策定

瀬戸内市地域公共交通網形成計画については、デマンドバス「モーモーバス」の実証運行終了後、昨年度から引き続き市内の公共交通のあり方を検討する中で、市全域を対象とした基本計画を定め、取り組みを進めることが必要となったことから、本年度「瀬戸内市地域公共交通会議」において策定を進めています。

この計画は、平成28年度から平成32年度までに取り組む



増便を予定している市内の路線バス

内容として交通不便地域を特定した上で、デマンド交通、既存バス路線の増便などそれぞれの地域に適した交通形態を導入することなど具体的な施策を盛り込んでいます。

なお、この計画は、交通事業者、市民、学識経験者など関係者を交えた会議による協議と、交通不便地域で開催した住民意見交換会での市民の意見などを反映したものと なっています。

平成28年度当初予算

当初予算編成に当たっては、持続可能で自立性の高い財政運営基盤を確立するため例年行っている、中期財政計画に基づく各部署への一般財源配分方式による予算編成としました。

一般会計の予算額は、161億8,112万1千円で前年度比較1,005万5千円の微増予算です。

平成28年度予算は、「第2次瀬戸内市総合計画」や「瀬戸内市太陽のまち創生総合戦

略」などの計画を実現するため、昨年策定した「瀬戸内市行政改革プラン」の取り組みを進めることにより、財源の確保、コスト削減を図った予算としました。

高付加価値商品開発・販路開拓支援事業

本事業は、補助事業者と地元事業者が、協働で「売れる商品」への磨き上げを行い、商品開発し、「首都圏の大手百貨店」で販売するものです。いわゆる地産外商により地場産業の活性化を目指すので、地方創生先行型上乗せ交付金を活用しています。

地元事業者は、募集により15者から応募があり、審査により9者が選定されました。

現在は、大手百貨店のバイヤーなどの専門家との対話により商品の磨き上げを行っているところで、3月には2回、首都圏の大手百貨店で販売会を行います。市の新たなブランド化につながることを期待しています。

錦海塩田跡地活用事業の進捗状況

岡山県自然保護条例に基づく県と市と事業者の3者による自然保護協定に基づき、自然保護エリア内の約16ヘクタールに、希少な猛禽類の保護を目的とした、事業者による錦海ハビタットの整備が完了しました。

今後も、この協定に基づき3者が相互に連携して、自然環境の保全が図られるよう努めていきます。



ホオジロなどの小鳥が隠れやすいように人工的に造った水路



ネズミ類の隠れ家となるように樹木を積み上げた場所を設置

デマンド交通

利用者の予約により運行する乗合交通システム。運行方式や運行ダイヤなどの組み合わせにより、多様な運行形態が存在する。

地方創生先行型上乗せ交付金

地方公共団体による地方版総合戦略の早期かつ有効な策定と、これに関する優良施策などに対し、国が支援するもの。上乗せ交付金は、特に他の地方公共団体の参考となる先駆的事业に対して配分される。

錦海ハビタット

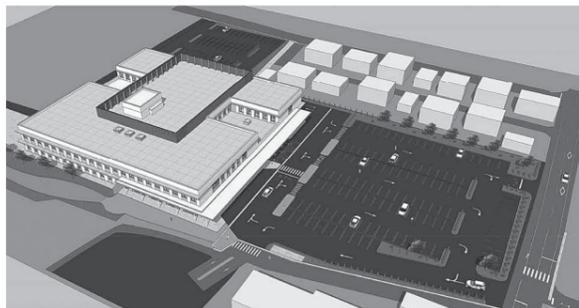
希少な猛禽類の保護を目的とするもので、ヨシ原の水辺環境を残しながら既存の樹木や水路を活用した猛禽類の食餌環境の向上を図っている。

また、水深に変化をつけて複雑に入り組ませた水路や自生植物を利用した植栽、小動物の生息しやすい環境の創出により、猛禽類の餌となる鳥やネズミの繁殖につながることを期待される。

新病院建設工事の進捗状況

現在、建物の主要部分となる躯体工事と配管工事は終了し、内装工事と機械設備工事を施工しています。

工期完了を目指し、資材調達や作業人員の確保などに努めてきましたが、内装工事などの作業人員の不足や近隣住民への影響を考慮した作業時間の調整により、工程どおりの施工が困難な状況となっています。



新瀬戸内市民病院の完成予想図

そのため、工期を3カ月延長し本年6月までとせざるを得ない状況となり、新病院開院は、2カ月延長して10月を予定しています。

平成27年中の火災救急の概況

火災の状況は、平成27年中の火災件数は13件で、前年より5件増加しています。

火災種別では、建物火災11件、その他の火災2件となっています。建物火災の焼損程度では、全焼1件、半焼2件、部分焼・ぼや8件で、そのうち5件が放火・放火の疑いであることから、パトロールなどの警戒を強化し、火災の減少に努めています。

救急の状況は、出動件数は1,646件、1,581人を搬送し過去最高となっています。年齢別では65歳以上の人が1,012人で64・0%と高い割合を占めています。

このことから、高齢者を対象とした家庭内事故の未然防止を目的とした「予防救急」の普及の一層の啓発を図り、

救急件数の抑制に努めたいと考えています。

教育長から

外国語指導助手（ALT）の配置

教育委員会では、平成28年度から外国語教育の推進に力を入れたいと考えています。社会のグローバル化が進む中で子どもたちの基礎学力の向上を図りつつ、幼児期から小学校中学年までに英語に慣れ親しむ機会を確保し、コミュニケーション能力の素地を養うため、ALTの配置を拡充したいと考えています。

学校施設の耐震化など

学校施設の構造体に対する耐震化については、文部科学省の基準に基づき実施しています。瀬戸内市立の学校施設は、2月末に完了する長船中学校武道場の耐震改修工事を

もって、耐震化率100%を達成する予定です。

また、本年度は、牛窓東小学校体育館、邑久中学校武道場および長船中学校体育館の吊り天井や照明器具などの非構造部材に対する耐震化工事を実施し、児童生徒が地震の際の落下物による被害を受けないよう整備しました。

今後の学校施設に対する改修においては、多くの施設の老朽化が進んでおり、大規模改造や老朽改修が必要な建物が多く、計画的に整備をしていきたいと考えています。

牛窓北幼稚園の休園

牛窓北幼稚園については、本年度、園舎の簡易耐震診断を実施した結果、耐震化が必要であるが、基礎に鉄筋が入っておらず強度が弱いことなどから、耐震補強での耐震化は困難と判定されました。その後、保護者への報告とともに意見交換を行ってきました。最終的に臨時PTA総会で検討された結果、今後の



4月から休園する牛窓北幼稚園

あり方については、「教育委員会へ判断を委ね、結果に従う」と決議されました。また、7人の在園予定者のうち数人が保育園への転園を希望したことから、平成28年度は園児が5人を下回る見込みです。

教育委員会としては、教育委員会協議で協議を行い、園児の安全を図ることが重要であること、人間関係の固定化など教育の質の低下につながる懸念があることから、牛窓北幼稚園を平成28年4月1日から休園し、入園希望者は牛窓東幼稚園に入園いただくことと決定しましたのでご理解をお願いいたします。

瀬戸内発見伝

巻之百二十一

“幻の名工”が焼き物の指導に瀬戸内まで来ていた？

真葛香山と虫明焼

真葛香山（宮川香山）という名前をご存じでしょうか。戦前の日本の陶磁器界を先導し続けた存在で、今や幻の焼き物と呼ばれる作品群。国際的な評価の高い真葛香山と、地元・虫明焼にまつわる縁をご紹介します。

明治の三大名工の一人

真葛香山は、明治から昭和初期にかけて4代にわたり活躍した横浜の陶工です。中でも初代香山・虎之助が最も有名です。もとは京都出身ですが、維新期の京焼に限界を感じ、海外への玄関として発展著しい横浜に移住して、陶器や磁器を制作しました。

各地の焼き物を取り入れた独特の作風が海外を中心に評価され、帝室技芸員にも選ばれます。当時最先端の芸術が集う万国博覧会に出品して受賞を重ね、明治の三大名工の一人に数えられるなど、近代陶磁史に大きな足跡を残しています。

明治以後の陶磁器で国の重要文化財に指定されているのは、初代真葛香山と板谷波山ただ二人だけです。

若き香山、虫明へ来る

瀬戸内市虫明には、岡山藩筆頭家老・伊木家の庇護のもとで発展した、瀟洒で洗練された作風で知られる虫明焼が

あります。

中でも茶人としても有名な14代伊木忠澄（三猿齋）は、虫明焼に大きな変革をもたらしました。それが京都から名工を呼び寄せての指導です。

弘化4（1847）年に初代清風与平、続いて明治初年に横浜移住前の初代真葛香山を招聘して茶陶を焼かせ、土地の人々に陶技の指導を行わせたのです。

来窯時、香山は二十代半ばにして、その仕事ぶりから評価が高まっており、虫明でも茶人好みの風流な作品を多く残しています。明治3



「菊絵菓子鉢」清風与平



「桜絵茶碗」森香洲

（1870）年に制作された「楠溪下絵染付手付樽」は岡山県指定重要文化財にもなっています。

その後も横浜に移った香山と虫明焼の縁は続き、陶工の森家は真葛香山の名前をもらって、森葛雄や森香洲と号しました。

特に香洲は、香山の弟子として2度も横浜に向いて陶技と見聞を広げ、虫明焼の隆盛を目指しました。

戦火に消えた焼き物「マクスウエア」

その類い稀なる芸術性と時代に即した斬新な作品により、「マクスウエア」の名は世界に広がりました。当時のヨーロッパの窯場にも強い影

響を残しています。

しかし、真葛香山の名前が幻となる出来事が起こってしまいます。昭和20（1945）年、横浜は大空襲にさらされました。そして、一発の焼夷弾が真葛香山の窯場を直撃。3代香山をはじめ、職人や貴重な資料が失われました。

こうして幻の焼き物となっていた真葛香山ですが、海外での高い評価や作品の重要文化財指定などもあり、近年では研究も進み、その業績が再評価され始めています。

現在、岡山県立美術館で「世界を魅了した陶芸家 宮川香山―没後100年 虫明焼と明治の陶芸―」という展覧会が5月8日まで開催されています。

瀬戸内市からも虫明焼を数点出品しています。この機会に、幻の名工について触れてみてはいかがでしょうか。

【参考文献】

田邊哲人「帝室技芸員 真葛香山」、桂又三郎「茶人伊木三猿齋」、邑久町虫明焼作陶会「古虫明・現代虫明焼展」